

1

調査結果から見える
2011年度入学生の特徴

【P.6 インタビュー】

- 現行課程で義務教育の9年間を過ごしてきた最初で最後の世代
- 「ゆとり」路線の揺り戻しにより、学習時間はやや回復
- 諸外国と比較して、相対的に学習時間は少なく、学習意欲が低い
- 諸外国と比較して、学習に関する効用感や高学歴志向が低い
- 読解などのリテラシーが十分に身に付いているとはいえない

2

学校現場から見える今の生徒の課題

【P.10、P.13 現場からの提言】

- 自分中心になりがちで、全体に向けた話を自分のこととして受け取れない
- 実利的な志向が強まり、地道な実践力、持続的な行動力を持ちにくい
- 「分からない自分」と向き合うのが苦手で、答えをすぐに求めてしまう
- 「問題を解く楽しさ」を知らない生徒が多い

3

これからの高校教育の役割を考える視点

視点 1 高校教育の在り方を、複数の観点で考える

- ・ 高校教育の複線化も視野に入れた議論が必要
- ・ 高校での学びと大学や社会とのつながりを教師自身の言葉で語る
- ・ 「学びの哲学」を伝えることでモチベーションを高める

【P.6 インタビュー】

お茶の水女子大学教授 **耳塚寛明**

視点 2 現場教師の企画力を生かし新たな取り組みを加える

- ・ 大学で学ぶ内容や最先端の研究を、授業と関連付ける
- ・ 一歩踏み込んだ面談で生徒を深く知る
- ・ 新しい取り組みを行うため、担任の「企画力」を磨く

【P.10 現場からの提言】

愛知県立豊田高校校長 **青山伸一**

視点 3 一つひとつの取り組みの意義を改めて見直す

- ・ 「質問」の意味を再定義し、学習の質を高める
- ・ 集団で学ぶ価値を見直し、学校の活性化につなげる
- ・ 取り組みを行う理由を常に考える

【P.13 現場からの提言】

長崎県立諫早高校教務主任 **石山雅晴**